

別海町郷土資料館だより

No.77・2005・12

郷土資料館の畑で収穫祭

10月9日、小学校4、5年生を対象とした中央公民館の事業「アドベンチャースクール」のプログラムのひとつとして、郷土資料館の畑で育てた作物の収穫を行いました。

今年はダイコン、ニンジン、ゴボウ、ジャガイモの種を植えましたが、気候にも恵まれてどの野菜も順調に育ちました。当館木村主査の指導の下、傷をつけないように注意しながら収穫しました。またそれと平行して、夏のキャンプ時に作った土器を焼く作業を行いました。

収穫後は中央公民館に移動し、ぶた汁やおしるこなどを皆で協力して作りました。私も試食させてもらいましたが、とても美味しくできたと思います。

(文責 戸田博史)



新コーナー「別海に咲く花」

郷土資料館廊下に新コーナー「別海に咲く花」を新設しました。これは、別海町内に自生する植物の花をマクロ（拡大）撮影したものです。普段見過ごしがちな小さな花も、拡大してみると思いもよらずとても美しいことがわかったり、またよく見慣れているはずの花でも新たな発見があったりしますので、ご

来館の折には是非ご覧下さい。

また従来からある「根室地方の原野に咲く草花」のコーナーも、題箋を新しくするなどリニューアルを行いました。今後は写真を徐々に新たに撮影したものに入れ替えていきたいと思っています。

(文責 戸田博史)



野付通行屋跡 遺跡の発掘調査が終了

「野付通行屋跡遺跡」の発掘調査が10月末で終了しました。今月号の「広報べつかい」にその概要が掲載されていますのでご覧ください。なお本紙では来月号より、今年度の発掘調査についての詳しい報告を連載していく予定です。どうぞお楽しみに。

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ
12月(■は休館日)

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体(10名以上) 240円
高校生以下は無料となります。

「加賀家文書」の調査研究から～その2 1

調査員 戸田 峯雄

「チラエワタラ」（チライ＝イトウ、ワタラ＝淵～川が蛇行し、深みになっているところに魚やイトウが多くいる）に、喜多野様・井上様・竹内様が宿泊している。「取扱日記」にも記されているように、ここは宿泊の時に手入れをしたり、修理をしたりして使われる通行屋だったようだ（右図参照）。

「シベツ」は、「シヤリ」越山道を下って海岸に出て1キロばかり北に進んだところでシベツ川が海岸に沿って南へ流れていたところにあった。ポー川史蹟自然公園にある「標津番屋屏風絵図」や加賀家文書館にある「寒所（メナシ）領本川（シヘツ）会所御武者（ヲムシヤ）之図」として描かれている、通称「子モロ下会所」と呼ばれていた大番屋（248坪）があって、通行人のない時はメナシ七ヶ番家の元締めであった。116人のアイヌの人たちが住むところであった（下図参照）。

4日青天、歩行～東浜お茶～ポニタイから御乗船一番お召し船・二番御乗船・三番御乗船・四番御供船になられ、野付湾内でお昼飯を差し上げ、ノツケへお着きになられた。夕食・朝食には麦の御飯。「ノツケ番家に至り止宿す。漁場多く、菜園有りて大根の類能く出来たり。麦も出来たるが掛けあるを見たり。沼ありて帆立貝多し。貝のままもらいて火に炙りて喫するに味殊に美なり」（『東徼私筆』）。麦の出来が良かったので、奉行に食べて戴いた。

5日 逆風なので、ベツカイまでの積りで御出船し、バラサン沖で御昼飯をとられ、ベツカイに上陸し、献上鮭の製造を御検分して直ぐに出帆し、午後6時頃に根室へお着きになられた。引き船二艘、海岸迄支配人がお出迎え、仙台様家中お出迎え、水夫40人へ酒を下げられる。



目賀田帯刀「北海道歴検図 根室州(下) チラエワタラ (部分)」(北海道大学附属図書館蔵)。1801年昼飯場、1850年迄は役人通行の時は丸太小屋を作って泊まった。同年シヤリから止宿所を移した。1854年から1856年に通行屋が建てられたと考えられる。

6日 仙台お陣屋、お台場を検分し出帆する。厚岸の殿様とお奉行様は同船。風蓮湖辺りでお昼飯。午後2時頃にアツウシベツ（厚別）にお着き。お奉行様並びに厚岸の殿様御用人・お侍・御家来方まで皆さんへ西瓜を差し上げました。

7日、小雨模様の中を馬でご出立、リエニクル～ラエヘツ～コタンコアンヘツ～ヲエナウシの境までは金井様・佐伯様・加藤様、通訳鉄蔵（伝蔵の兄）他～ベカンベウシまで人足51人、馬29頭（根室から19頭、厚別から6頭、炭焼きから2頭、厚岸から2頭。これは御奉行様と喜多野様が御乗馬となる）。

以上がお三方の根室での廻浦の概略です。

参考文献：山宮克彦『近世のなかしべつ～旧斜里山道を中心として～』（中標津町郷土館、2001年）



「標津番屋屏風（部分）」（新潟県西蔵寺蔵。標津町教育委員会『標津の文化財』（一九九八年）より転載。

別海町郷土資料館だより No.77

発行日 平成17年12月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 町内在住の方で植物の写真を撮るのが好きな方がいらっしゃれば、是非資料館に写真を提供していただければと思います。当館にてプリントし、「根室地方の原野に咲く草花」コーナーに展示させていただきます。なお、町内に自生する植物で、撮影日と撮影場所が明らかな写真に限らせていただきます。（戸田博史）